

社会科教育(小)部会 理論 研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>社会的事象を公正に判断し、 社会と主体的にかかわる力を育む学びの創造</p>	
<p>日時</p>	<p>平成30年 7月 6日(金)</p>	
<p>会場</p>	<p>石狩教育研修センター</p>	
<p>講師</p>	<p>鎌田 和宏 氏 (肩書: 帝京大学教授)</p>	
<p>参加者</p>	<p>約 20名</p>	
<p>研修会 の 様子</p>		<p>昨年に引き続き、帝京大学の鎌田先生にお越しいただき、講演をしていただきました。「楽しく社会しませんか」というところからスタートしました。新学習指導要領本格実施に伴い、教科書も大幅な改訂を迎えています。「主体的で対話的な学び」を社会科ではどのようにとらえ、進めていくのかを話していただきました。フィールドワークのような「足を使って」感じ、学んでいくことの大切さを話していただきました。</p>
	<p>新学習指導要領の目指す一つとして「2030年を生き抜く子どもたちを目指す」という点についても詳しくご教授していただきました。戦後に始まった「社会科の目指すべきものは何か」というテーマのもと、常に変化のある社会の中で、思考・判断を繰り返し行動していける子どもたちを育てていく。そのためには、何が必要であるかというところにスポットをあて、鎌田先生の実践も踏まえ、話していただきました。</p>	
	<p>参加者からの質問の時間にも、懇切丁寧にお答えしていただきました。「すべての子どもが夢中になるような授業づくりとは」といった質問に対し、身近な教材を生かす大切さやこれまで教材研究された地域教材を利用することなど、ご助言いただきました。</p> <p>今回の指導要領改訂により、社会科でも指導過程の変更がなされている。特に、3年生から始まる「地図帳の学習」6年生の社会科が憲法・政治から始まることなど、具体的に各学年のポイントなどをお話いただいた。今回のお話をもとに、私たちも現代を生き抜く子どもたちの育成を目指していきたい。</p>	

(文責: 寺井 智史)